

実践『ペルソナ』通信 (No.35)  
「女子大生の勉学・進路」に関する調査結果

実践女子大学人間社会学部・実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、「女子大生の勉学・進路」についてアンケート調査を実施しました。有効回答者数は60サンプルでした。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計科学（担当:竹内光悦）」、「経営学（担当:篠崎香織）」、「マーケティング（担当:斎藤明）」の3つの分野のゼミ生を中心に組織され、実践女子大生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を科学する研究会です。

総括

渋谷キャンパスに所属する実践女子大生の勉学・進路について60サンプルの実践女子大生から回答を得た。

今回の調査を通して、学年が上がるごとに、履修・取得・落とす単位は減っていき、反対に、全休の数は増えていくことがわかった。

さらに、調査項目の中の、「最も多い評価」、「さぼりの実態」、「代返の実態」、「勉強が好きか」、「勉強ができると思うか」、「進学した理由」、「大学で専門的知識を得られたと思うか」、「今勉強していることと希望する就職先の関連性」の8項目について学部別に分析を行い、最も差が表れたのは、大学に進学した理由であった。

調査結果のポイント

(1) 単位取得の状況

各学年次に取得した単位数を尋ねたところ、学年が上がるごとに取得する単位数・落とした単位数は減っていき、それに伴い全休の数は増えていることがわかった。

さらに、成績について最も多い評価を尋ねたところ、6割強の人がA以上の高い評価をされていることがわかり、履修を組む際に最も重視していることを尋ねたところ、約8割の人が勉学に重きを置き履修を組んでいることがわかった。

## (2) 授業態度について

授業をさぼったことがあるかどうか尋ねたところ、さぼったことがあると回答した人は7割以上おり、そのうち「寝坊」「だるくなった」という回答が7割を占める結果となった。

また、授業における代返行為について尋ねたところ、頼んだ経験があると回答したのが約3割なのに対し、頼まれた経験があると回答した人は6割程度いた。

## (3) 勉強について

勉強が好きかどうか尋ねたところ約半数の人が勉強を好きでも嫌いでもないと答えた。また、学部別での分析も行ったが大差は無かった。さらに、勉強ができると思うかどうか尋ねたところ、約半数の人が勉強に対してあまりできないという意識を持っているということがわかった。

## (4) 大学生活について

大学に進学した理由について約6割の人が学歴のためとしており、やりたいことについては7割以上の人がまだ模索中であるということがわかった。

また、約6割の人が授業によって専門的な知識を得られたと感じているということがわかった。

## (5) 進路について

大学卒業後の進路について尋ねたところ、ほとんどの人が大学卒業後は就職することを考えているということがわかった。

さらに、参加したインターンシップの形態について尋ねたところ、多くの人がインターンシップに参加していないというのが現状で、参加したとしても期間が短いインターンシップのほうが好まれることが分かった。

また、大学の勉強と就職先との関連について尋ねたところ、約6割の人が大学で勉強したことと関連した企業に就職したいと考えており、

## 調査結果について

### <調査概要>

1. 調査対象：実践女子大生 3 年生(短大生含む、渋谷キャンパス在生)
2. 調査方法：質問紙によるアンケート
3. 調査期間：平成 28 年度 10 月 25 日（火）～ 平成 28 年度 11 月 28 日（月）
4. 有効回答者数：60 名
5. 回答者の属性：【実践女子大学生：学部】人間社会 60% 文学：40%

## 本件

### 調査担当

実践「ペルソナ」研究会

3 年 渡辺 莉子

3 年 荒川 夏海

3 年 齋田 玲菜

## 調査結果データ

### (1) 各学年次の履修状況

各学年次に履修した単位数を尋ねたところ、1年次に履修した単位の平均は43単位、2年次に履修した単位数の平均は42.8単位、3年次に履修した単位数は36.4単位となり、1年、2年次に履修する単位数はあまり変わらないが、3年次になると履修単位数が少なくなることがわかった（図1）。

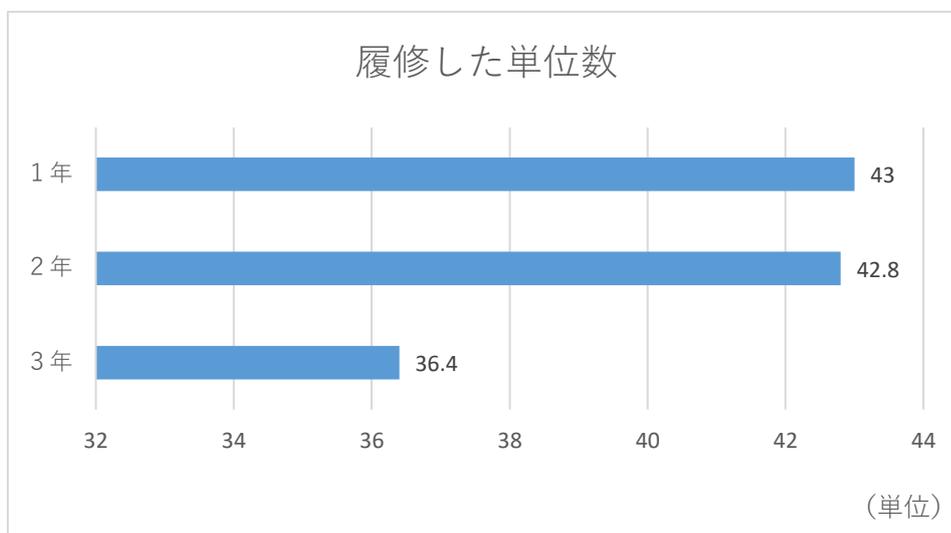


図1 実践女子大生の履修実態(n=60)

### (2) 各学年次に取得した単位数

各学年次に取得した単位数を尋ねたところ、1年次に取得した単位の平均は41.5単位、2年次に取得した単位数の平均は39.4単位、3年次に取得した単位数は36.8単位となり、学年が上がるごとに取得する単位数は減っていくことがわかった（図2）。

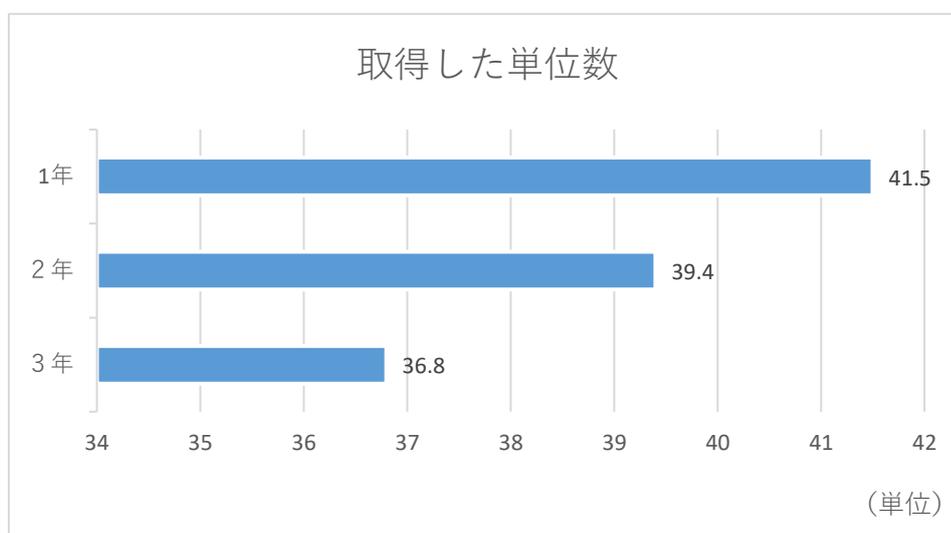


図2 実践女子大生の履修実態(n=60)

### (3) 各学年次に落とした単位数

1年次に落とした単位の平均は2単位、2年次に落とした単位数の平均は1.4単位、3年次に落とした単位数<sup>1</sup>は0.6単位となり、学年を重ねるごとに落とした単位数が減っていることが分かった(図3)。

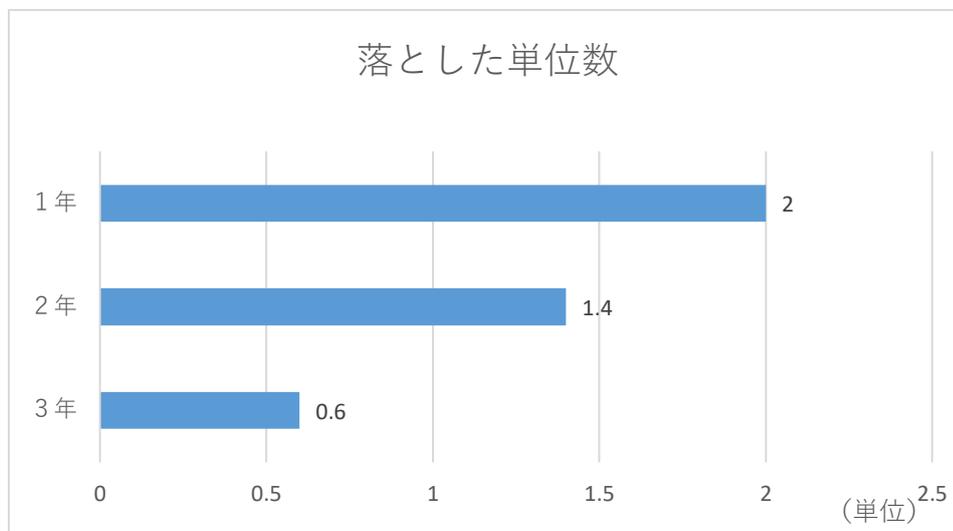


図3 実践女子大生の落とした単位数の実態 (n=60)

### (3) 約6割強の人がA以上の高い評価をされている(人数確認後編集)

成績について最も多い評価を尋ねたところ、Aと回答した人が46%、A+と回答した人が22%、Bと回答した人が26%、Cと答えた人が6%、D・欠と回答した人はいなかった。この結果から6割強の人がA以上の高い評価をされていることがわかった(図4)。

さらに学部別に分析したところ、人間社会学部にCと答えた人が9%いたのに対し、文学部にはCと答えた人がおらず、そのぶんBの割合が多くBとCの割合に差が出たが、A以上の評価には大きな差は見られなかった(図5、図6)。

<sup>1</sup> 12月現在、3年後期の成績が出ていないため、ここでは3年前期の落とした単位数の平均値の2倍と仮定する。

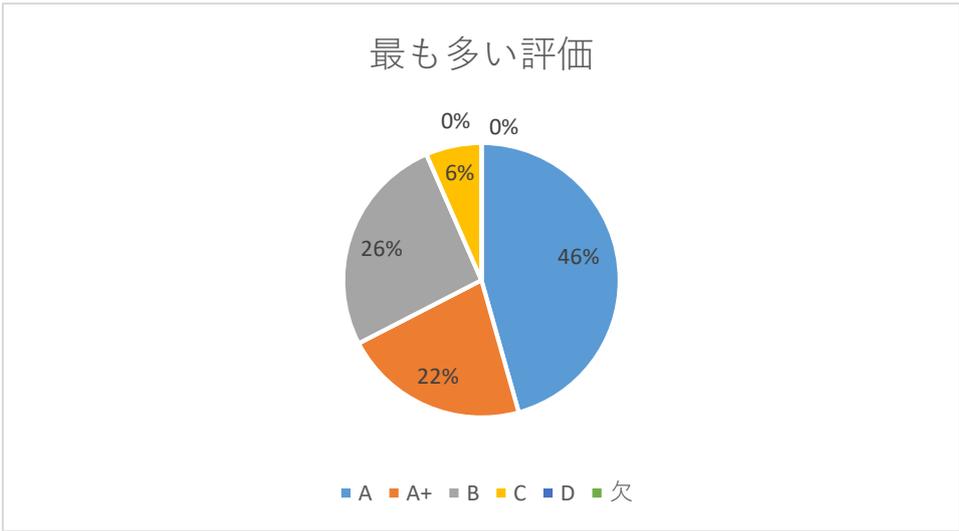


図 4 実践女子大生の最も多い成績評価の実態 (n=60)

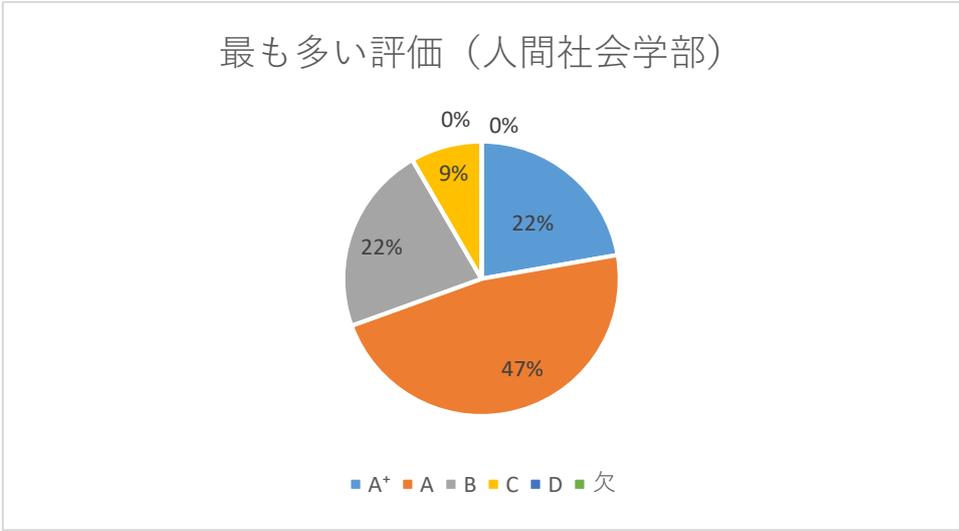


図 5 実践女子大生の最も多い成績評価の実態2 (n=36)

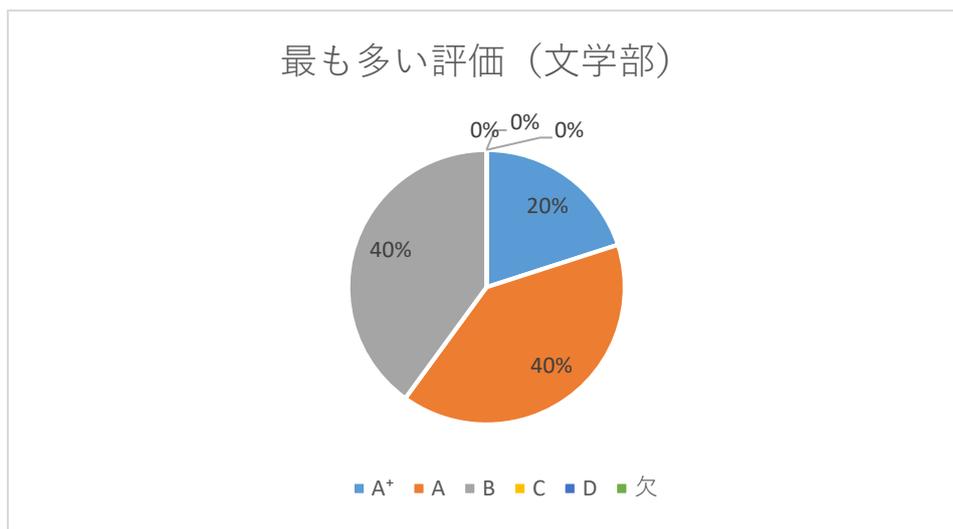


図6 実践女子大生の最も多い成績評価の実態3 (n=24)

**(4) 学年が上がるごとに全休の数は増える**

各学年での全休の日数を尋ねたところ、1年次における全休の平均日数は0.3日、2年次における全休の平均日数は1日、3年次における全休の平均日数は1.4日となり、学年が上がるごとに全休の数も増えていることがわかった（図7）。

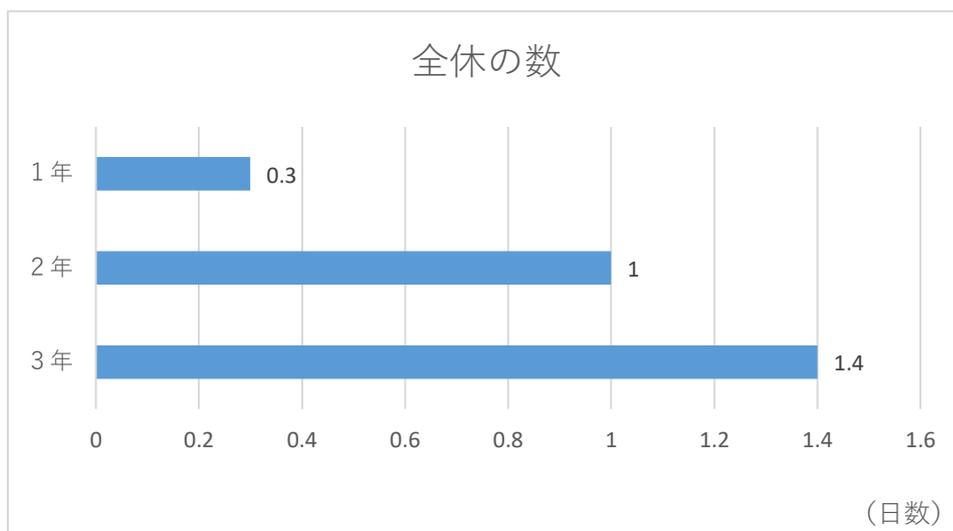


図7 実践女子大生の全休の日数の実態 (n=60)

**(5) 半数以上の生徒が授業内容で履修を組んでいる**

履修を組む際に最も重視していることを尋ねたところ、授業内容と回答した人が54%、資格が

取得できる授業と回答した人が24%、空きコマを作らないと回答した人が11%、全休が作れると回答した人が7%、楽単と回答した人が4%、友人と同じになるように・アルバイトに入れるようにと回答した人はいなかった。このことから、半数以上の人々が授業内容で履修を組んでおり、さらに、資格が取れるという項目と合わせると約8割の人々が勉学に重きを置き履修を組んでいることがわかった（図8）。

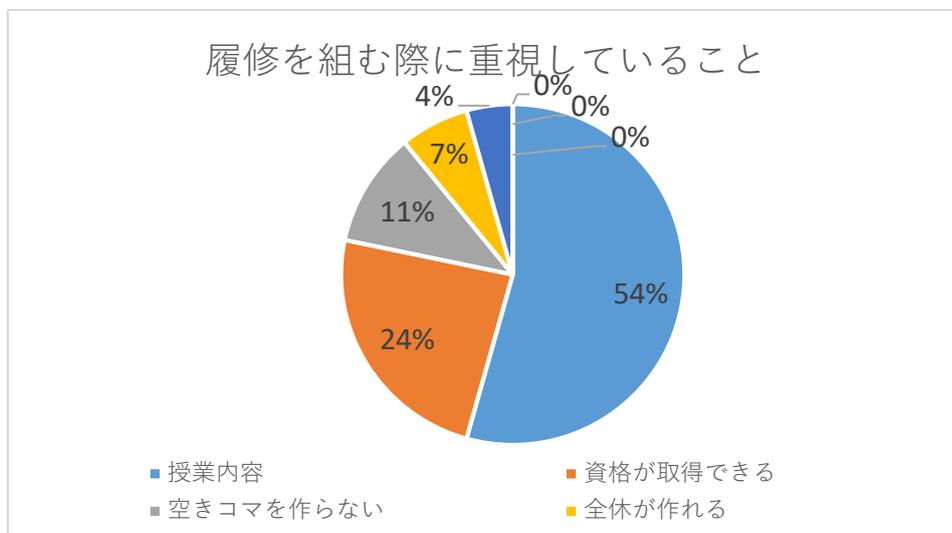


図8 実践女子大学生が履修を組む際に重視している項目 (n=60)

(6) 約7割の人が授業をさぼったことがある (人数確認後編集)

授業をさぼったことがあるかどうか尋ねたところ、さぼったことがあると回答した人が74%、さぼったことがないと回答した人が26%という結果となった（図9）。

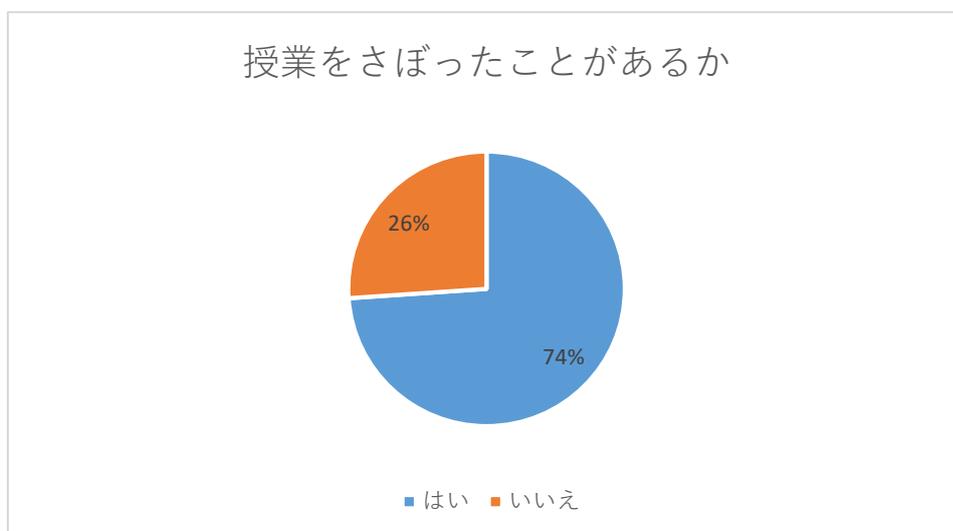


図9 実践女子大生のさぼりの実態 1 (n=60)

### (7) 授業をさぼった理由

授業をさぼった理由を尋ねたところ、寝坊をしたと回答した人が35%、その他（ないと思っていたらあった、意図的に休んだ、ディズニーにいった、野球観戦のため、コンサートがあった、テスト勉強がやばかった）と回答した人が35%、だるくなると回答した人が24%、出席をとらない授業だからと回答した人が3%、空きコマに出かけてそのまま帰宅と回答した人も同じく3%であった（図10）。

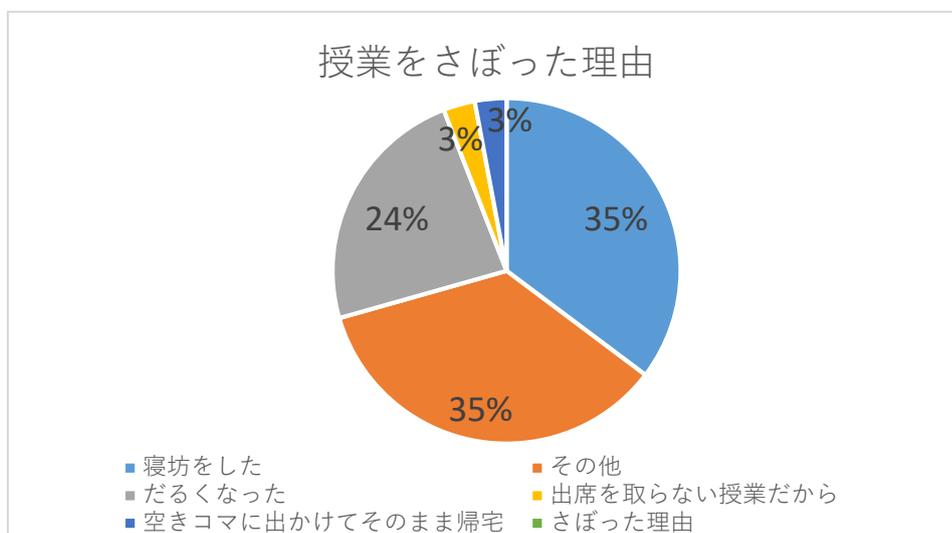


図10 実践女子大生のさぼりの実態2 (n=34)

### (8) 代返を頼んだ経験

代返（出席カードを他人に書いてもらう）行為を頼んだことがあるかどうかを尋ねたところ、頼んだことがないと回答した人が72%、頼んだことがあると回答した人が28%となり、約7割の人が代返行為を頼んだことがないと答えた（図11）。

さらに、代返行為を頼んだことがある学生を学部（人間社会学部、文学部）別に分類したところ、77%が人間社会学部、23%が文学部という結果になった。このことから、文学部の学生よりも人間社会学部の学生の方がする休みをしている傾向にあるのではないかと考えられる（図12）。

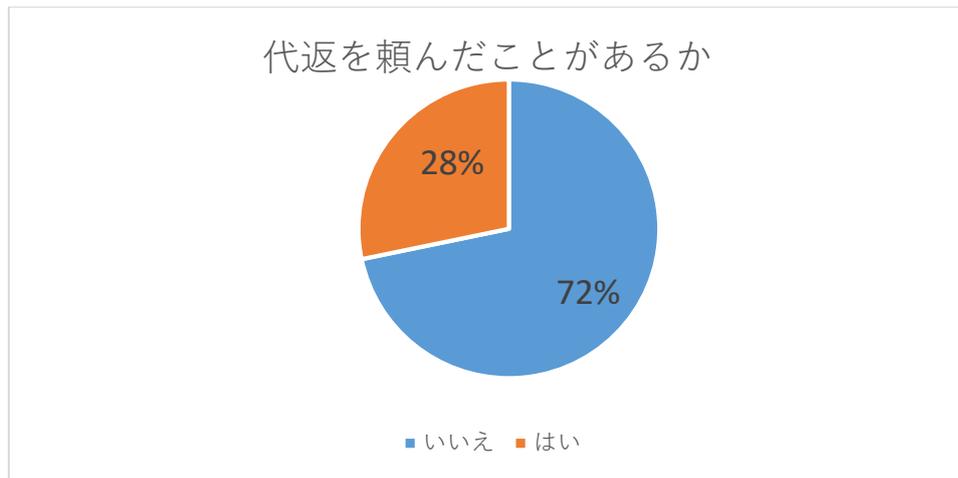


図 11 実践女子大生の代返行為の実態 1 (n=60)

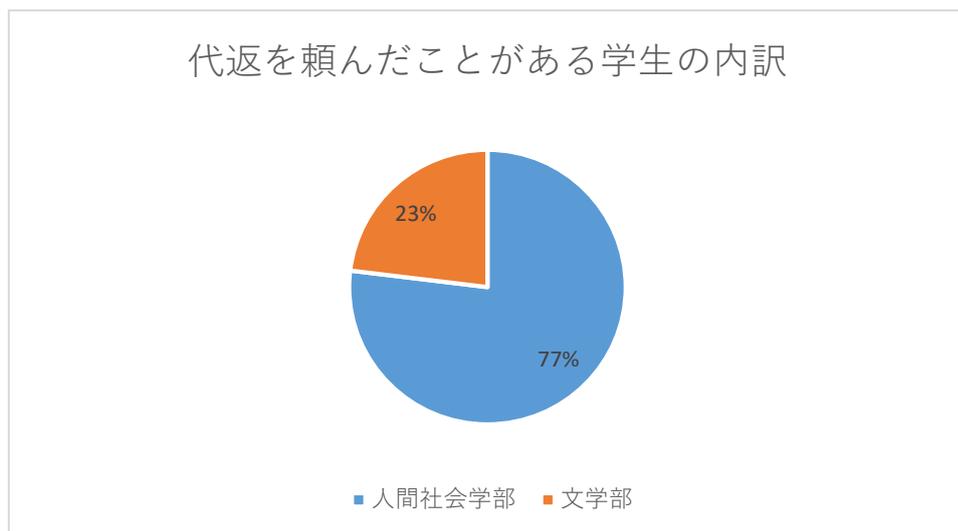


図 12 実践女子大生の代返行為の実態 2 (n=13)

### (9) 代返を頼まれた経験

代返（出席カードを他人に書いてもらう）行為を頼まれたことがあるかどうかを尋ねたところ、頼まれたことがあると回答した人が 65%、頼まれたことがないと回答した人が 35%となり、質問 8 と質問 9 の結果から、代返行為を頼まれた経験はあるが、代返行為を頼んだ経験がない人が多いことがわかった（図 13）。このことから、一人の学生が多くの人に複数回代返行為を頼んでいるのではないかと考えられる。

さらに、代返行為を頼まれたことがある学生を学部（人間社会学部、文学部）別に分類したところ、77%が人間社会学部、23%が文学部という結果となった（図 14）。

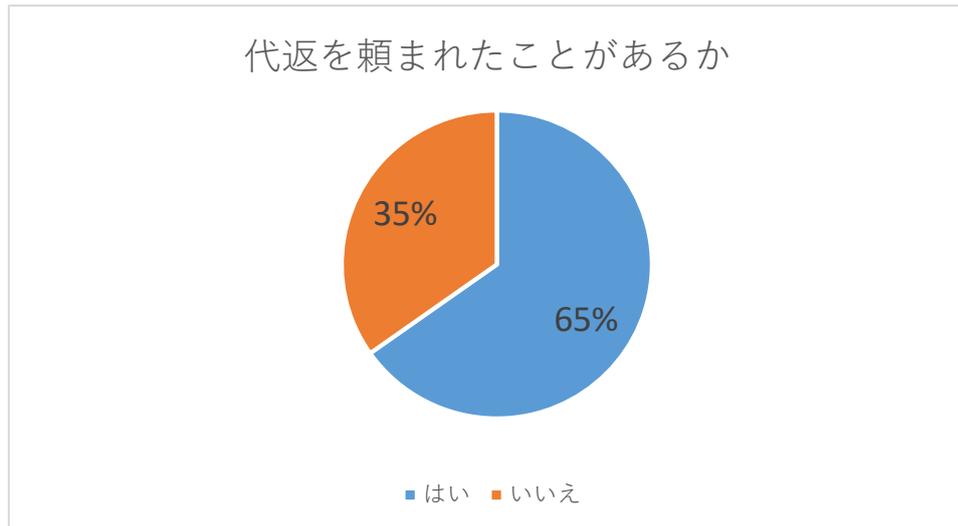


図 13 実践女子大生の代返行為の実態 3 (n=60)

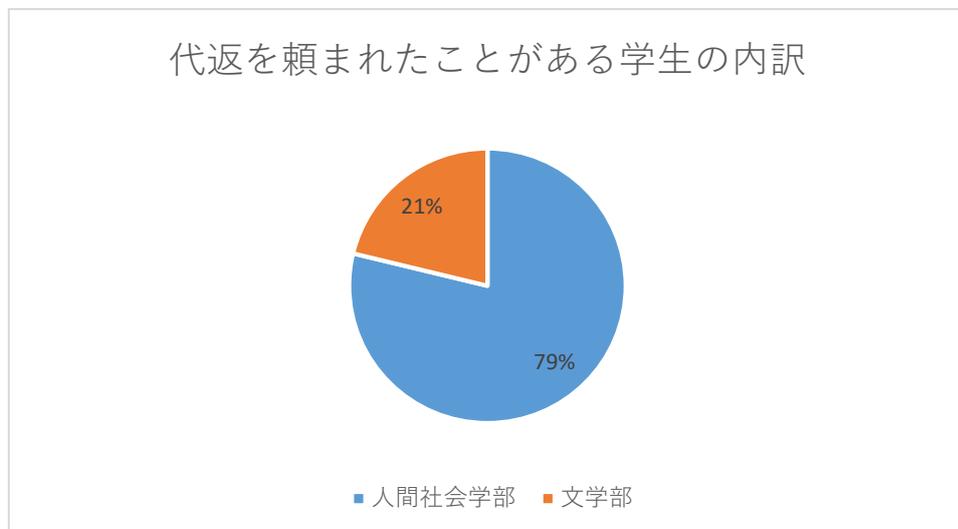


図 14 実践女子大生の代返行為の実態 4 (n=30)

#### (10) 勉強が好きかどうか

勉強が好きかどうか尋ねたところ好きと答えた人が9%、どちらかといえば好きと答えた人が15%、普通と答えた人が54%、どちらかといえば嫌いと答えた人が18%、嫌いと答えた人が4%となり、約半数の人が勉強を好きでも嫌いでもないと答えた。また、どちらかといえば好きと答えた人とどちらかといえば嫌いと答えた人の割合がほぼ同じであった(図 15)。

さらに、勉強が好きかどうかを学部別に分析したところどちらかといえば嫌い、嫌いと答えた人の割合が文学部の方がわずかに少なかったが、両者の間に大きな差は生まれなかった。(図 16、図 17)。

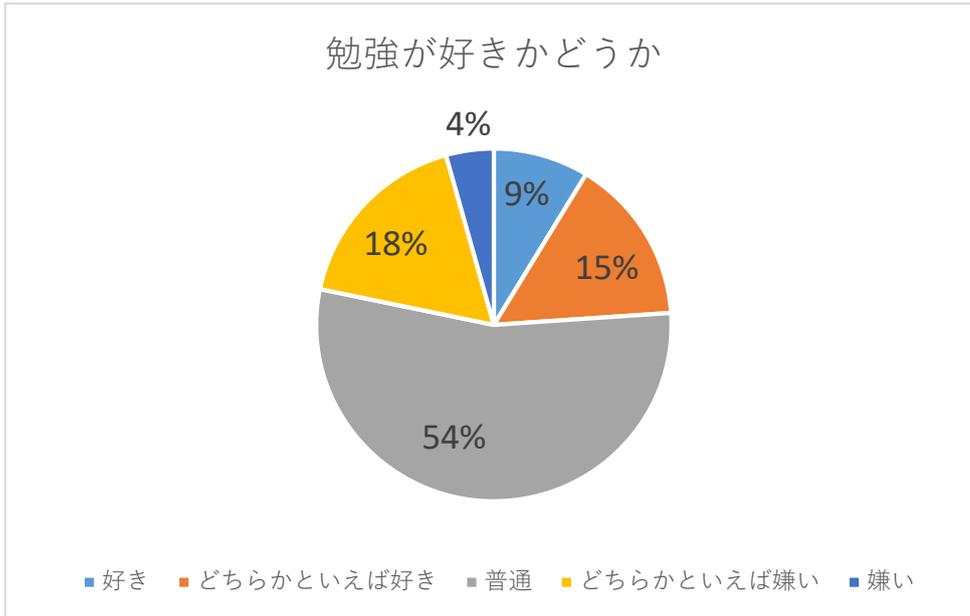


図 15 実践女子大生の勉強に対する意識の実態 1 (n=45)

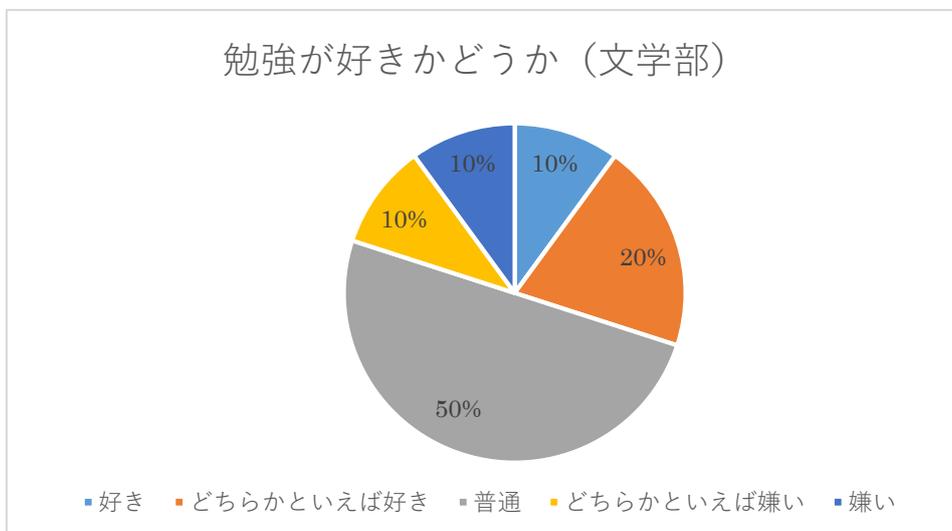


図 16 学部別の勉強に対する意識の実態 1 (人間社会学部) (n=36)

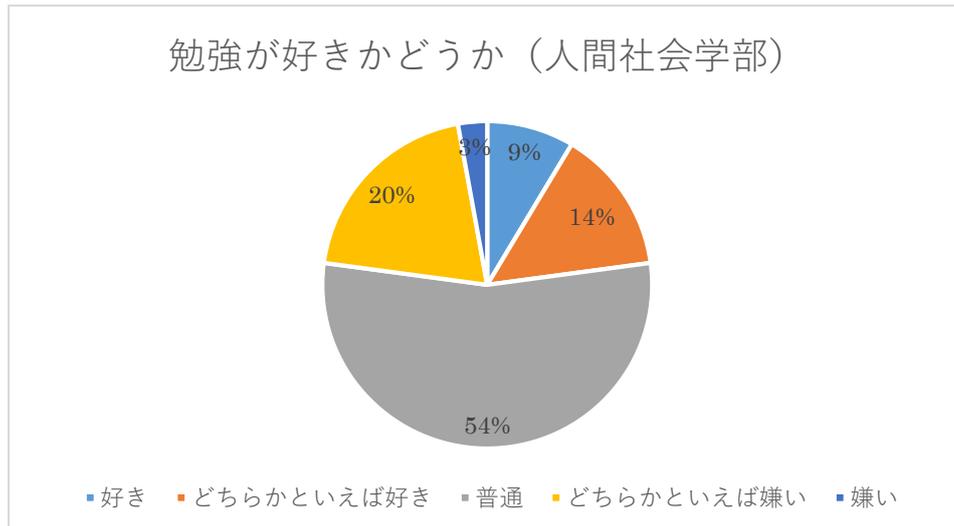


図 17 学部別の勉強に対する意識の実態 2（文学部）（n=24）

### （11）勉強ができると思うかどうか

勉強ができると思うかどうか尋ねたところ、できると答えた人が13%、普通と答えた人が36%、あまりできないと答えた人が49%、とてもできると答えた人と全くできないと答えた人はおらず、約半数の人が勉強に対してあまりできないという意識を持っているということがわかった（図 18）。

さらに、勉強ができると思うか学部別に分析したところ、人間社会学部の学生の方が文学部の学生より自己評価が高いことがわかった（図 19、図 20）。

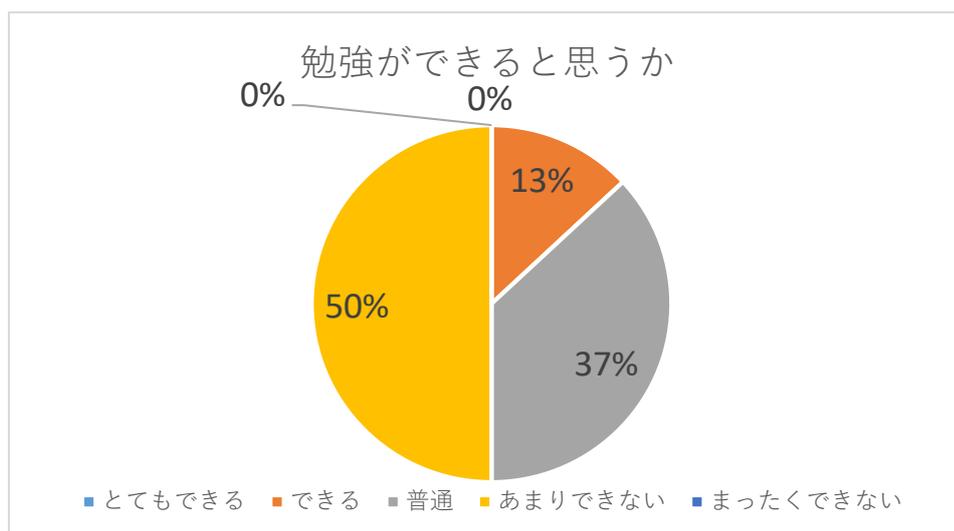


図 18 実践女子大生の勉強に対する意識の実態 2（n=60）

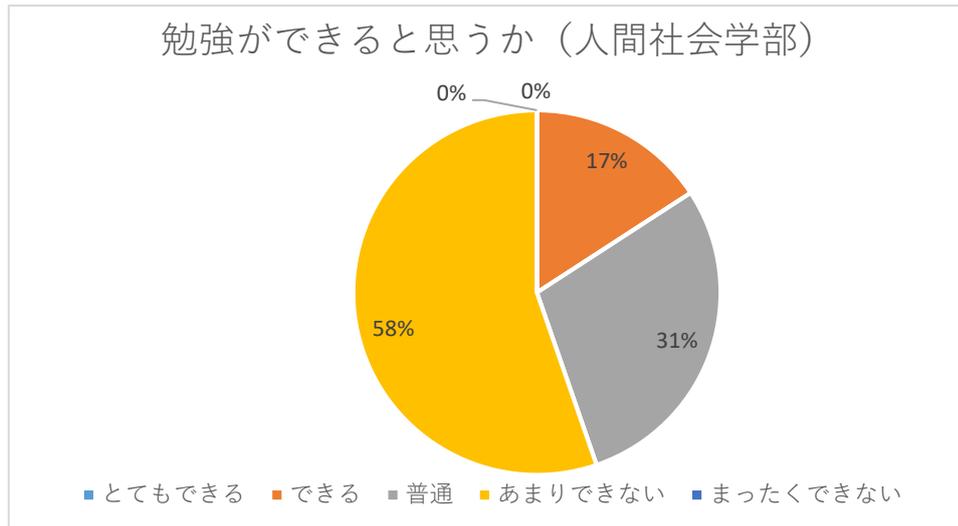


図 19 学部別の勉強に対する意識の実態 3（文学部）（n=36）

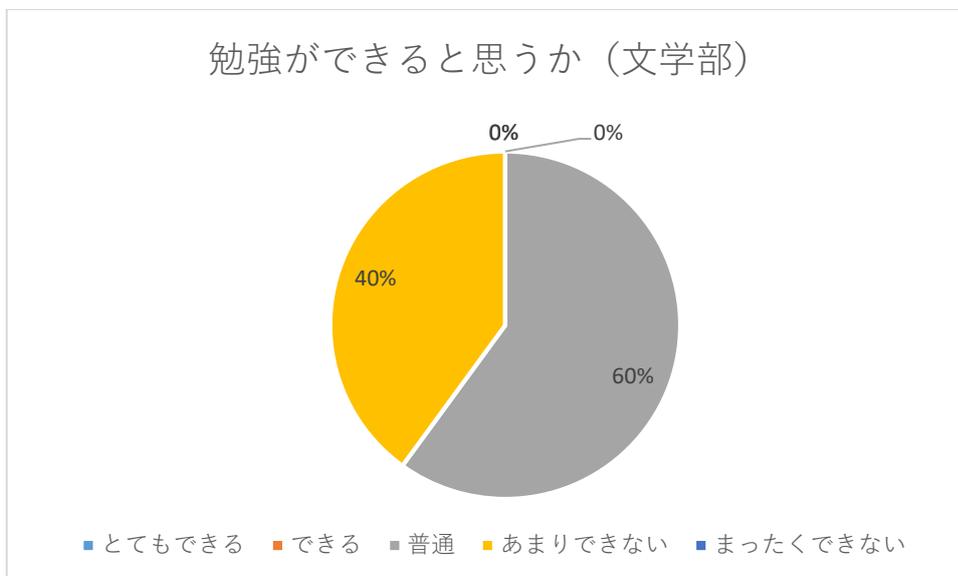


図 20 学部別の勉強に対する意識の実態 4（文学部）（n=24）

### （12）大学に進学した理由

大学に進学した理由を尋ねたところ学びたいことがあったからと答えた人が 26%、まだ就職しなかったからと答えた人が 9%、学歴が必要だと思ったからと答えた人が 63%、家族や先生の勧めによりと答えた人はおらず、その他と答えた人が 2%となり、約 6 割の人が学歴のために大学に進学したということがわかった（図 21）。

大学に進学した理由を学部別に分析したところ、人間社会学部の学生は学歴が必要だと思ったからという回答が半数以上を占め、文学部の学生は学びたいことがあったからという回答が半数以上を占める結果となり、大きな差がみられた（図 22、図 23）。

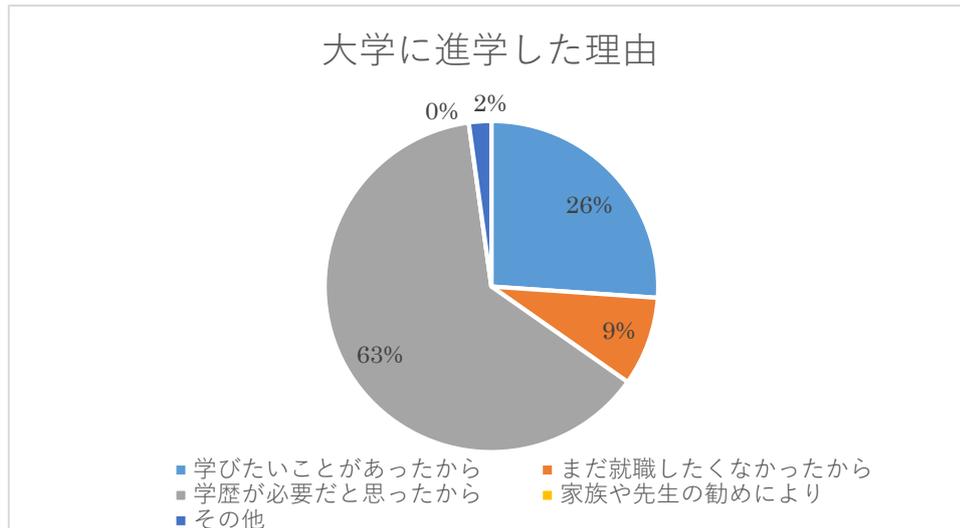


図 21 実践女子大生の進学理由の実態 (n=60)

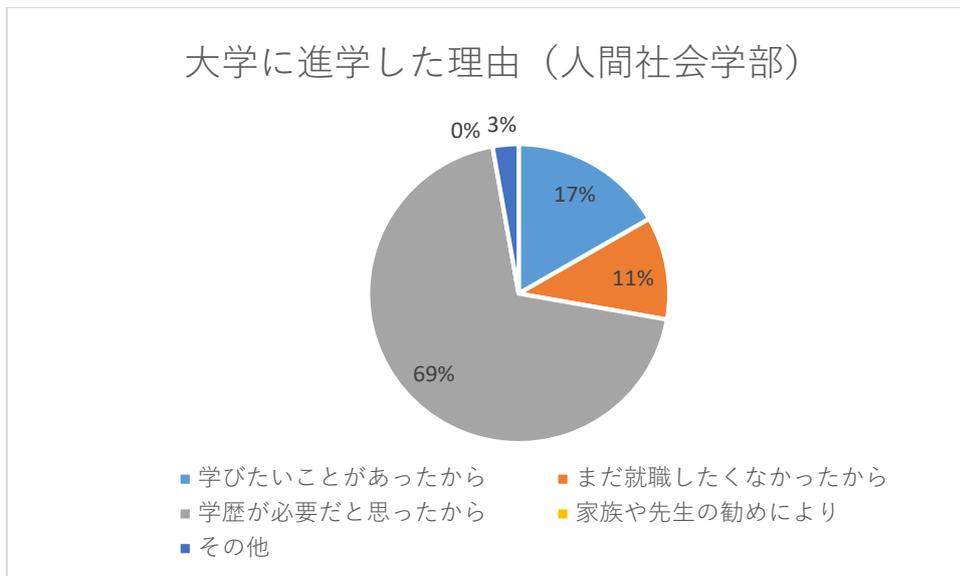


図 22 学部別の勉強に対する意識の実態 (文学部) (n=24)

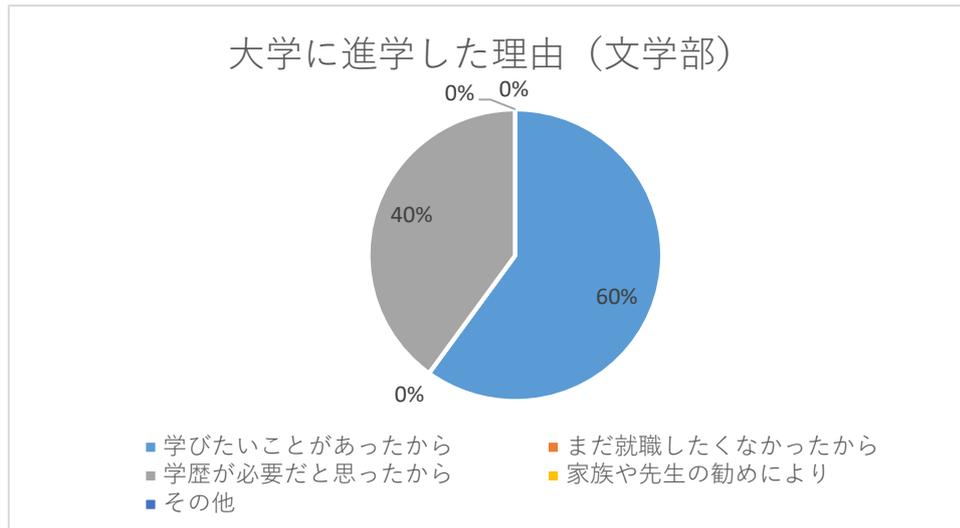


図 23 学部別の勉強に対する意識の実態（文学部）（n=24）

**（13）大学に進学してやりたいことは見つかったかどうか**

大学に進学してやりたいことが見つかったかどうか尋ねたところ、見つかったと答えた人が 15%、模索中と答えた人が 76%、諦めたと答えた人が 2%、この大学では見つからないと答えた人が 5%、その他と答えた人が 2%となり、7 割以上の人はまだ模索中であるということがわかった（図 24）。

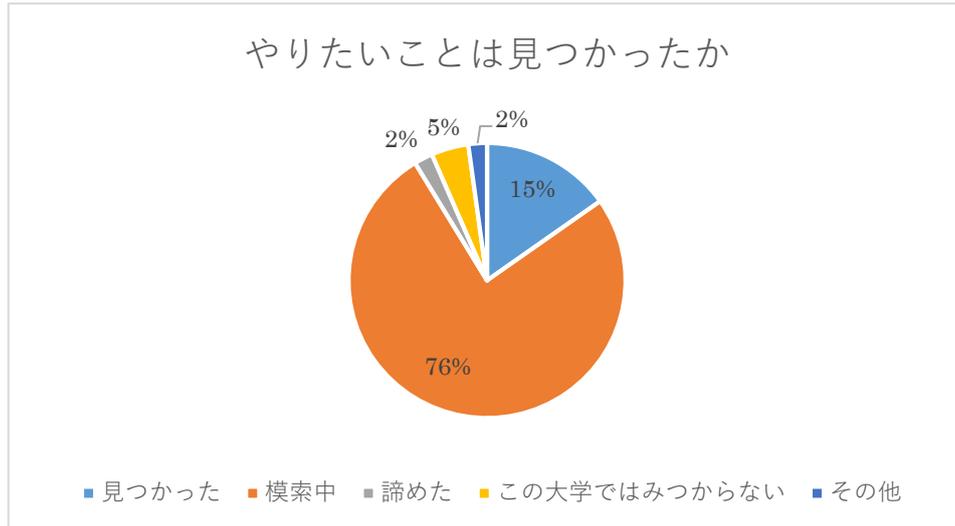


図 24 実践女子大生の大学生活の実態 1（n=60）

**（14）授業で専門的な知識を得られたと感じているかどうか**

授業で専門的な知識を得られたと感じているか尋ねたところ、とても感じていると答えた人が 13%、感じていると答えた人が 63%、どちらでもないと答えた人が 11%、あまり感じていないと答えた人が 9%、全く感じていないと答えた人が 4%となり、約 6 割の人が授業によって専門的な知識を得られたと感じているということがわかった（図 25）。

さらに、授業によって専門的な知識を得られたと感じているかどうかの結果を学部別に分析したところ人間社会学部の学生より文学部の学生のほうが専門的な知識を得られたと感じているということが分かった（図 26、図 27）。

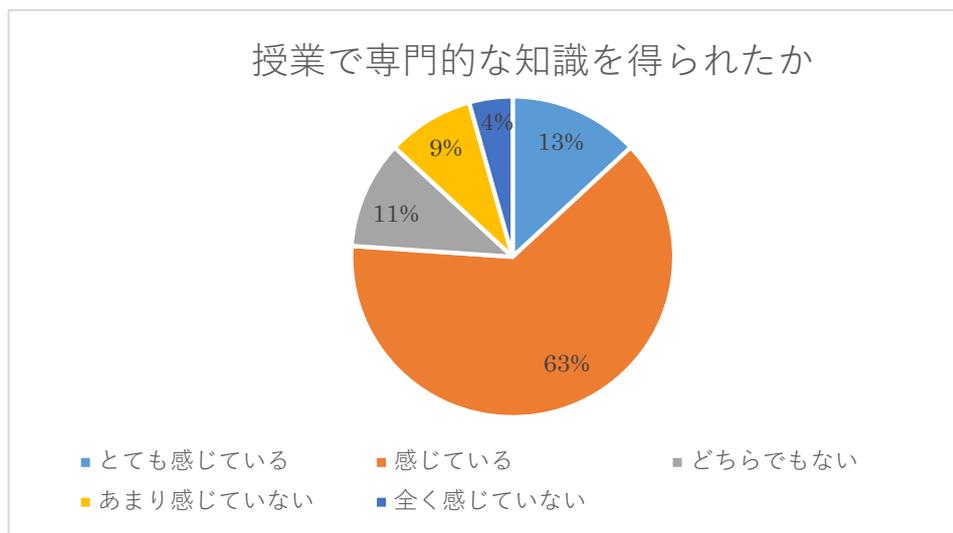


図 25 実践女子大生の大学生生活の実態 2 (n=60)

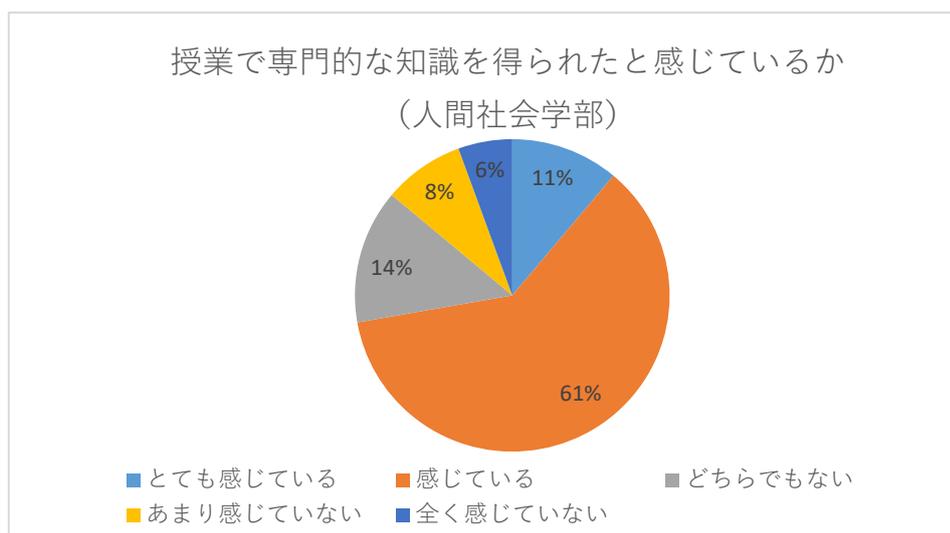


図 26 実践女子大生の授業に対する意識の実態 1 (人間社会学部) (n=36)

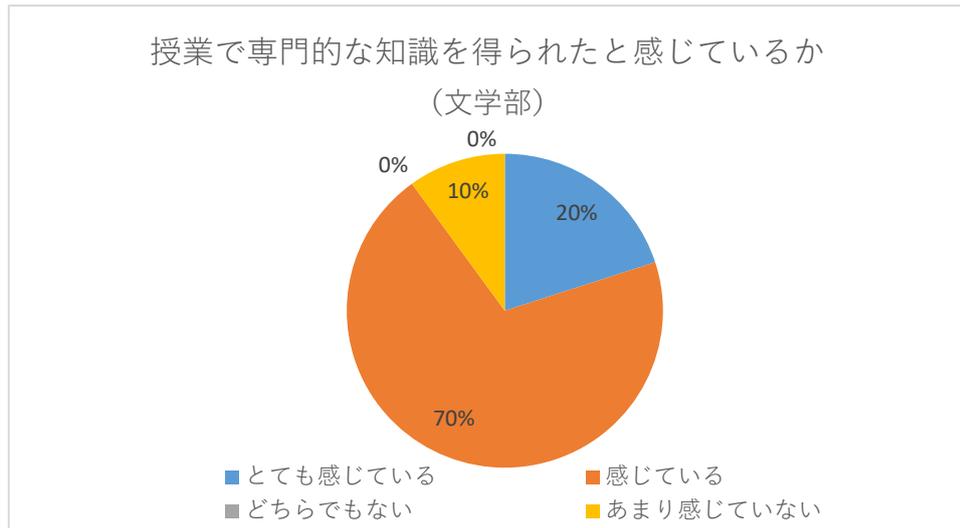


図 27 実践女子大生の授業に対する意識の実態 2 (文学部) (n=24)

### (15) 卒業後の進路について

大学卒業後の進路について尋ねたところ、就職と答えた人が 96%、未定と答えた人が 4%、大学院と専門学校と答えた人はおらずほとんどの人が大学卒業後は就職することを考えているということがわかった (図 28)。

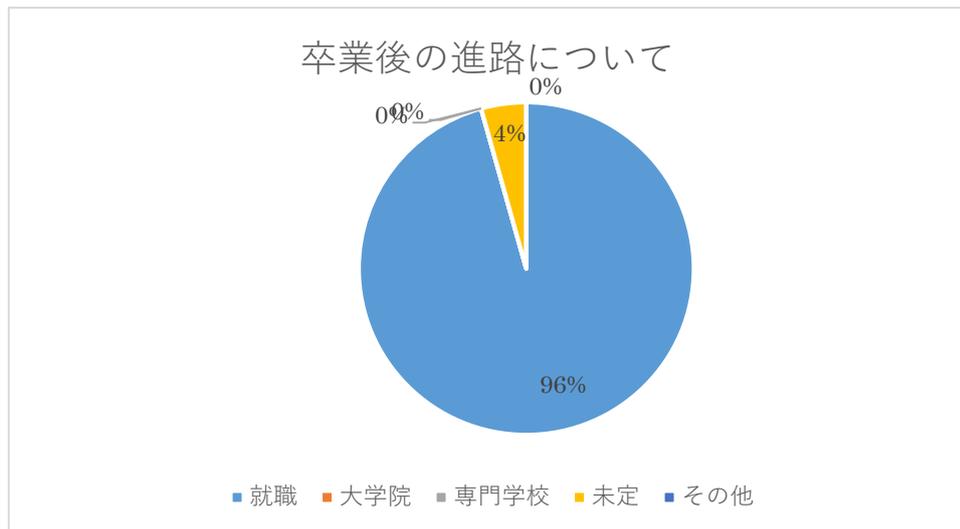


図 28 実践女子大生の卒業後の進路の実態 (n=60)

### (16) 参加したインターンシップの形態について

参加したインターンシップの形態について尋ねたところ、1Day と答えた人が 33%、2~5 日間と答えた人が 13%、1~2 週間程度と答えた人が 4%、1 ヶ月以上と答えた人が 4%、不参加と答えた人が 54%、その他が 2%となった。このことから、約半数以上の人インターンシップに参加していないことが分かった。また、参加したとしても期間が短いインターンシップほど好まれていることが分かった (図 29)。

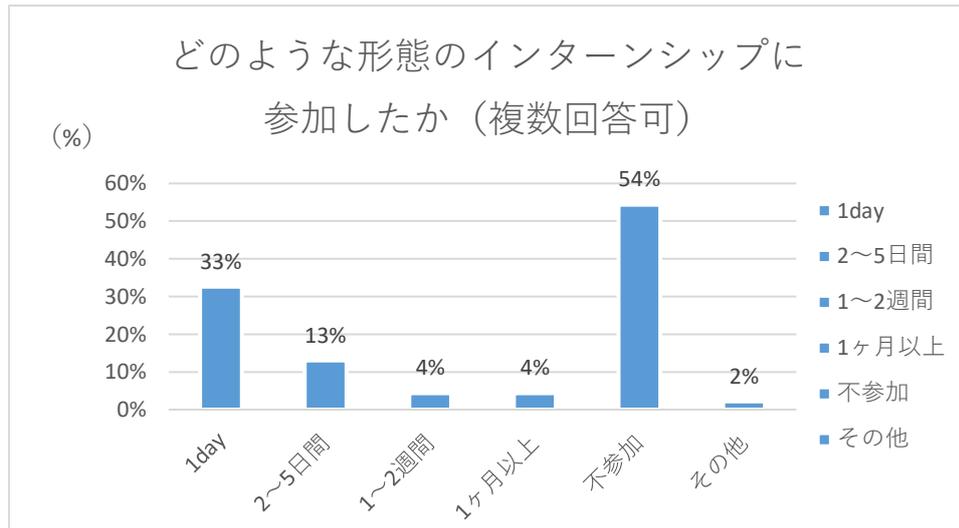


図 29 実践女子大生のインターンシップ参加の種類の実態 (n=50)

#### (17) 勉強していることと卒業後の就職先との関連について

大学の勉強と就職先との関連について尋ねたところ、大学で勉強したことと関連した企業に就職したいと考えている人が 58%、大学で勉強したことと関連しない企業に就職したいと考えている人は 42%となった。このことから、約 6 割の人が大学で勉強したことと関連した企業に就職したいと考えていることが分かった（図 30）。

さらに、大学の勉強と就職先との関連についての結果を学部別に分析したところ、大学の勉強と関連した企業に就職したいと考えている人の割合は、人間社会学部の方が僅かに多い結果となったが、そこまで大きな差は見られなかった（図 31、図 32）。

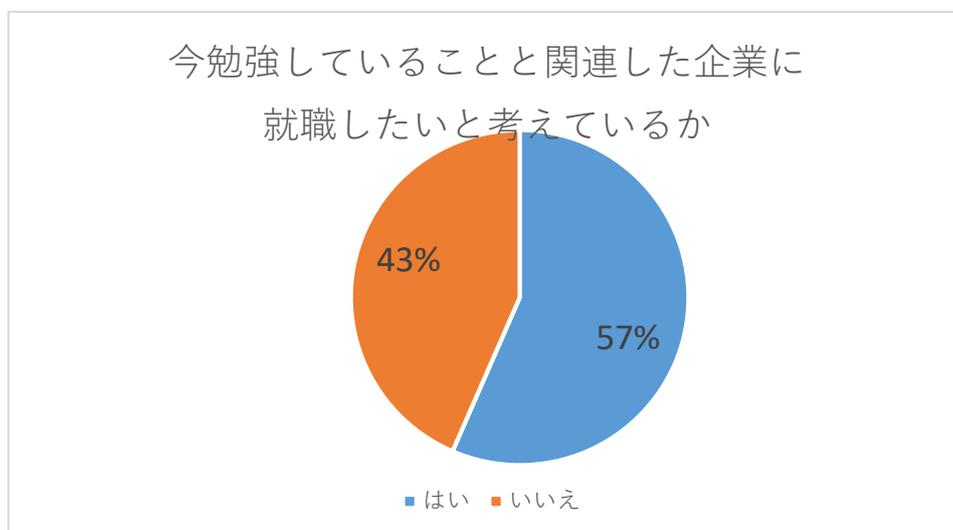


図 30 実践女子大生の勉強と就職先の関連の実態 (n=45)

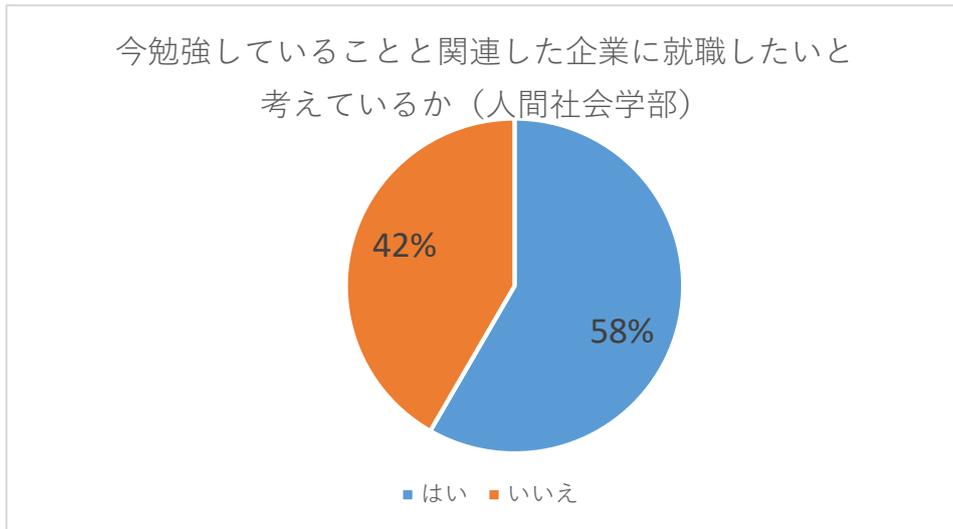


図 31 実践女子大生の勉強と就職先の関連の実態 (人間社会学部) (n=36)

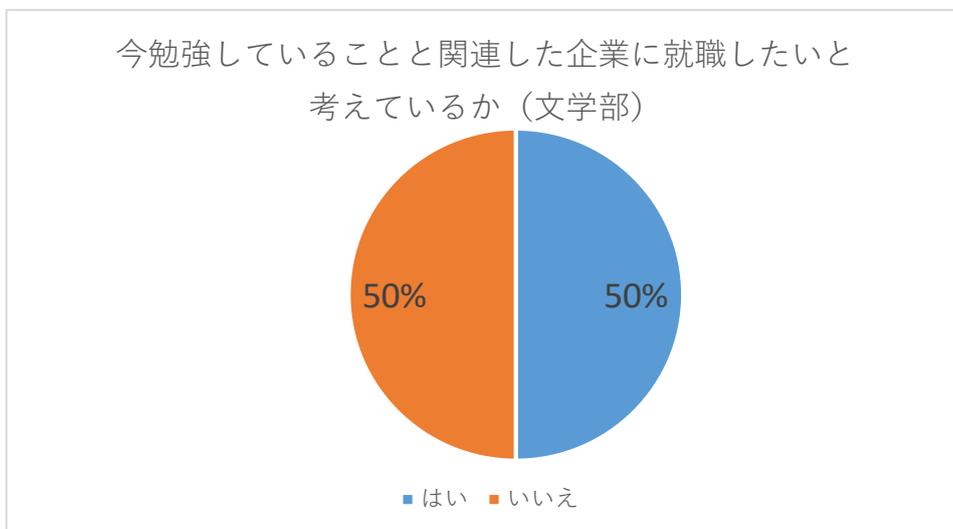


図 32 実践女子大生の勉強と就職先の関連の実態 (文学部) (n=24)